



最上エコボリスの実現  
= 豊かな自然 輝くもがみ =

# 小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第11号

平成21年6月10日発行

山形県 最上総合支庁  
建設部 河川砂防課

## 第3回 最上小国川流域 環境保全協議会を開催しました

環境保全協議会は、最上小国川の豊かな環境を守るための方策を検討します。



5月26日(火)午前10時から、最上町赤倉温泉において、第3回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

初めに、今年度の調査予定等について説明し、ご意見をいただきました。その後、最上小国川の状況をダム予定地から、下流の富長橋まで調査していただきました。

今回の協議会には萱場委員が欠席されましたが、12名の委員のうち11名にご出席いただきました。

第11号ではその概要についてご紹介いたします。

### 1. 委嘱状交付

本年度の人事異動によって、舟形町振興課渡辺晴美課長と、舟形町連合町内会の伊藤準悦会長に委嘱状が手渡され、新委員に就任されました。



### 2. 協議内容

- 1) 第2回環境協議会指導事項の調査報告
  - ・ヒメギフチョウの調査結果について
  - ・猛禽類について
  - ・植物(藻類)について
  - ・その他について
- 2) これからの環境調査計画について
  - ・猛禽類調査
  - ・付着藻類調査
- 3) これからの協議会の進め方について
  - ・今後の協議会の開催予定と協議内容



### ヒメギフチョウの調査を行いました

第2回環境協議会において、専門家から「ヒメギフチョウ」の調査を指導いただきました。これを受け、生息調査を実施しました。

ヒメギフチョウの食草は、ウスバサイシンとカタクリの花であることから、羽化する時期の4月下旬から5月上旬の調査が必要でした。その時期に現地調査を実施しましたが、ヒメギフチョウは見つかりませんでした。

### 3. 現地調査

現地調査は、下記のルートで行いました。

ダムサイト予定地  
赤倉温泉(ゆけむり橋下流川原)  
保養センター最上(屋上)  
白山橋  
舟形町一の関~十二河原付近  
富長橋



最上町 保養センターもがみ



舟形町 十二河原

委員の方々からのご意見や指導内容の詳細は、次号でお知らせいたします

## 最上小国川の治水計画策定にご尽力いただいた 小委員会座長 大久保山大教授 からメッセージをいただきました

この度、最上小国川の治水計画に深く関わっていただいた、山形大学農学部の大久保博教授からメッセージをいただきましたのでご紹介します。

### 【大久保教授からのメッセージ】(平成21年6月)

- 小委員会を振り返って
- ・地元が割れるようなことは好ましくなく、将来の地域の子どもたちに誇れるようなことをすべき、という意見が多かった。
- ・多数の意見だけでなく、少数の意見にも予断なく耳を傾けることが大切であると感じた。
- ・小国川をめぐる様々な将来像について、皆が参加して、話をすることが必要であると感じた。
- ・河道改修における現制度の限界や活用について十分な説明が必要であると思う。

### 最上小国川治水対策について

- ・河道改修については、低水敷のところを触らないで、高水敷のところを広げればよい。
- ・アユ築の統合や設置方法については、改善の余地があり、検討が必要であると思う。
- ・環境に配慮した技術的工夫の余地はあると思うので、広く議論されることが望ましい。

### 今後の進め方について

- ・意見が相矛盾するところは、技術的な改良によって解決するしかない。より多くの方が満足いくようにするには、意見を言ってもらって、技術的な改良点・工夫点を見出し、手当をするというのが一番いい。
- ・藻類への影響については、石表面の堆積物を取って、その微粒径の無機成分の量や藻類の種類や成長状況を調べておくことよい。
- ・ダム予定地すぐ上流の砂防ダムは、流木止めとして利用を検討することだが、現状の河川環境を改善するため水がたまりにくい砂防ダムに改良することは効果があると思う。
- ・行政は、ダム集水域周辺だけでなく小国川全体の河川環境の保全や再生等に力を入れていると流域の方に感じてもらえる方向に進めることが大切であるし、人々の生活を守りつつ、新たな地域振興の基盤整備という多面的価値にも配慮すべきであると思う。



第1回小委員会開催状況(平成18年1月)

大久保教授には、最上川水系流域委員会の最上地区小委員会において、座長を務めていただきました。この小委員会でとりまとめていただいた意見の要旨は以下の通りです。

### 【小委員会の意見】(平成18年5月)

～未来の子供たちに誇りと安心・安全な生活  
および豊かな自然を残すために～

治水対策は緊急の課題であることは地域共通の理解の下、河道改修単独案、放水路案、穴あき型ダム案に対して議論を重ね4項目に意見をまとめた。

- (1) 治水の目標  
計画対象降雨1/50年確率  
流量は赤倉温泉地点で340 m<sup>3</sup>/秒 とする。
- (2) 治水の手法  
赤倉地区の治水効果発現までの期間  
アユ等動植物の生息環境への影響  
経済性  
河道と温泉水脈との関連  
景観・親水性  
内水対策の必要性  
の観点から議論した結果。  
**現制度の下では穴あき型ダム案に依るほかない**  
と考えられる。
- (3) 環境への配慮  
穴あき型ダム整備は動植物の生息生育環境に影響がないとは言えない。特にアユへの影響評価のためには、整備前の早い時期から整備後まで河川全域のモニタリング調査を実施検討しつつ、影響を緩和し問題を解消する対策を用意しておくことが必要である。その際は、専門家による調査に加えて関連団体および住民も参加したモニタリング活動が重要である。
- (4) その他  
ダムによらない治水の意見を持つ方々に対しは、今後とも説明を重ね理解を得ることが重要。  
最上小国川の整備に当たっては、地域の活性化や一般市民が親水活動に利用する場の維持形成とともにダム堤体の景観に配慮することにより、赤倉温泉の振興につなげる。  
教育の現場や地域において、災害の歴史や取り組みの経緯、豊かな自然の状況を子供たちに知らせることが望まれる。



第3回小委員会開催状況(平成18年2月)

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課  
最上小国川ダム建設室 佐藤・高橋  
〒996-0002 山形県 新庄市 金沢 大道上 2034  
お問合せ先 電話 0233-29-1407  
Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。  
アドレスは下記のとおりです。

[http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami\\_bo/news/news/7314074ogunigawa\\_news.html](http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html)